

安心・安全なまち まつばら

まつばら
松原市長(大阪府) **澤井宏文**
Hirofumi Sawai



便利日本一のまち まつばら

松原市は、大阪府のほぼ中央にあり、「大阪のへそ」に位置します。北は大和川を隔てて大阪市、南と西は堺市という二つの政令指定都市に接し、ほとんどが平たん地で、大阪の中心部へは電車で10分程度で着くなどアクセスも良く、とても便利なまちとして、発展してきました。道路網では、阪神高速道路をはじめ、4本の高速道路やそれらを結ぶジャンクションがあり、さらに平成31年度末には阪神高速大和川線の開通が予定されております。そのため、本市を起点に、近畿2府4県主要都市へ1時間程度で行けるなど、日本でもトップクラス



5月に見ごろを迎える庁舎のバラ

の利便性を有しております。このような立地条件や松原市企業立地促進制度(奨励金が交付される)などを活用し、大型商業施設、物流業、製造業などの企業の誘致も積極的に進め、地域経済の振興を図り、雇用を創出することで、今なお発展を続けております。

歴史的に見ても道路網が充実しており、大阪市から奈良県明日香村までを結ぶ竹内街道・横大路(大道)は敷設から平成25年で1400年の節目を迎え、日本最古の官道として、平成29年度に文化庁より「日本遺産」として認定されました。他にも、市内には神社、寺、旧跡、さらに河内鴨や難波ねぎをはじめとする松原特産の食べ物など、多くの観光資源があります。このような観光資源を活用し、多くの方に来ていただけるよう平成30年度には、観光協会を設立しました。また、本市出身のAumpoolには観光大使として、Dream Ayaさんにはドリームアンバサダーとして市の魅力を広く発信していただいております。このような松原市へぜひお越しいただき、本市の良いところ、おいしい食べ物に触れていただくよう、心よりお待ちしております。

協働 日本一のまちを目指して

WHOセーフコミュニティ(以下、SC)とは、事故やケガなどは、偶然起こるものではなく、予防できるという理念のもと、



松原市セーフコミュニティ再認証式典(平成30年11月18日)

行政だけでなく、町会やさまざまな団体と協働して、事故やケガの原因を取り除くことにより、安心・安全で住みよい健やかなまちづくりを進める取り組みです。

本市においても、この理念に共感し、平成23年5月にSCに取り組みの宣言を行いました。行政だけでなく、市民の皆様との協働により、子どもから元希者(げんきもん)・松原市では高齢者の方をいつまでも希望を持って元気に暮らせるように、このように呼んでいます)までのすべての年齢階層で、どのように事故やケガが起きてい



インターナショナルセーフスクールの取り組み発表

進めております。
 スクールの取り組みも
 このような安心・安
 全への効果が表れてい
 ることは非常に意義深
 いことではあります
 が、同時に私たちが愛
 する松原をいつまでも
 住みたいまちになるよ
 う行政と市民との協働
 により、さまざまなこ
 とに取り組めたこと
 が、今後のまちづくり
 において大きな財産と
 なっております。

るのかを分析し、「子どもの安全」「高齢者の安全」「交通安全」「犯罪の防止」「自殺予防」「災害時の安全」の六つを重点テーマに取り組んできました。これらの市民の皆様との協働による取り組みの結果、平成25年11月に国内で8番目、大阪では初めてSC国際認証を取得することができました。

その結果、SCの取り組み前と比べると、刑法犯認知件数が48・4%減少、交通事故件数が27・4%減少するなど、着実な成果が表れております。さらにこの取り組みを将来の担い手である小中学生にも引き継いでもらいたいという思いから、自分たちが主体となって安全な学校づくりを行う、学校版SCであるインターナショナルセーフ

心の技に限りなし

今年新しい元号となり、大きな節目の年となりますが、平成元年当時の自分自身を思い起こすと、高校でのバスケットボールの部活動にとっても熱く取り組んでいたころでした。バスケットボールは球技の格闘技と言われるほど激しいスポーツですが、その反面、誰かを生かすために自己を犠牲にするという、チームスポーツでもありません。一人で好き勝手にやってもチームは強くなりません。高校の恩師から、体や身体能力は個人差があり伸ばすのに限界はあるが、心の持ち方、考え方に限界はないという教え（心の技に限りなし）をいただきました。市長とな

なった今でも、少し意味合いは変わりましたが、限られた財源の中で、いかに市民に満足してもらえるアイデア（施策）を生みだせるだろうかと常に考えています。アイデアは無限でお金がかかりません。まさにまちづくりに限りなし!! です。

また、市長とは最後の決断への責任を常に背負い、市民の期待に応えていくために強い心が必要です。高校時代のようにバリバリとスポーツをするわけにはいきませんが、今でも時間を見つけては体を動かして、心身共に健康であるよう努めています。それでも個

人では限界を感じることもあります。その時に大きな支えとなるのが、市民の方や職員などの本市が最も誇れる「人財」（本市では「材」ではなく人は宝という意味を込めて「財」と書きます）です。もちろん日々から、最も近くから支えてくれている家族には常に感謝をしています。その皆がチームとなり、一丸となることで本市を日本一魅力あふれるまちへと導けると信じて、日々、猛進しています。



バスケットボールで汗を流す筆者